



鶏 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

パウロの言葉

「すべてを適切に、秩序正しく行いなさい」

聖書(第1コリント書14章40節)

牧師 河合裕志

何事も適切に秩序正しく行うことは望ましいことだけれどもパウロはこの言葉をどういう状況で言ったものか。これは今日の私達からすると一寸想像するに困難と思われるような場面。

当時、紀元1世紀のコリント教会の礼拝では今日の教会に見られるような礼拝順序といったものがなかったみたい。そこに集まっている人達の中で、Aさんが急に異言を語り出す。BさんもCさんも語り出す。異言は当人が聖霊に感じて一種宗教的恍惚状態になって次々と訳のわからない言葉が口をついて出て来るもの。そんな人達が一勢にやるもんだから熱気紛紛、誠に騒騒しい。

一方で預言する者もいた。預言はみんなにわかる言語で神の言葉を語るもので、これは今日の説教と言ってよいもの。ただその場合もDさんが聖霊に感じて語り出す。EさんもFさんも負けてはならじと語りだす。これを同時的にやるもんだから矢張り聞きとりにくい。

他にも祈っている人がいるかと思えば賛美歌を歌っている人がいる。

およそ賑やか、賑やかを越えてうるさい。皆が好き勝手、てんでばらばらなことを行い、ひとり悦に入っている。

パウロはこのコリント教会の様子を聞いて、

これではいけないな、外部の人が見たら「気が変だ」と言われるのではないか、「教会を造り上げる」ことにはならない、教会は空中分解してしまう、と思われた。そこで彼は次のような具体的指示を与えた。

(1)「異言を語る者がいれば、二人かせいぜい三人が順番に語り、一人に解釈させなさい」

(2)「預言する者の場合は、二人か三人が語り、他の者たちはそれを検討しなさい」

(3)「霊で祈り、理性でも祈ることにしましょう。霊で賛美し、理性でも賛美することにしましょう」

そしてパウロはこう結んだ。「神は無秩序の神ではなく、平和の神だからです」「すべてを適切に、秩序正しく行いなさい」。

とに角順番を守って、わかる言葉で語る、祈る、歌う。こうすれば無秩序から救われる。礼拝は大分落ち着きを取戻す。平和になる。一体に順番を守らない、その底には一人よがりがある。自分の考え・行動を絶対とし他人の立場・権利を無視する。これでは困乱に陥る。教会の内外を問わず秩序・平和は望ましいこと。極力一人よがりを避け、他者の思いをくみ取ることが出来れば、と望まれる。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

中高青年会：日曜日礼拝後

聖書を学び祈る会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時

お話し会、(面談)：水曜日午後1時～7時